



清野 弘明・朝倉 俊成(編)

『臨床内科医が使える! 糖尿病治療薬処方テクニック
フローチャートでわかる薬剤選択・増量・変更・併用』

玉虫色でない実践的な処方ガイド—これさえあれば糖尿病治療薬に悩まない!

〔評者〕細井 雅之(大阪市立総合医療センター糖尿病センター代謝内分泌内科部長)

今までの糖尿病の「治療薬ガイド」のなかには、2型糖尿病患者にはじめに処方する薬は「病態に合わせた薬物療法—インスリンも含め全8種」と記載されており、まるで「なんでもOK」の「玉虫色」のガイドもありました。これでは病態に合わない医師や糖尿病を専門としない実地医家の先生方は何を処方していいのか迷ってしまうのではないのでしょうか。

清野弘明先生の『糖尿病治療薬処方テクニック』は患者さんの症状、罹病年数、肥満度、HbA1cの値からどの薬剤をどのくらいの量で処方すればよいのかがフローチャートでわかるように記載されています。しかもどの段階から何と併

用すればよいのか、インスリン療法にはどの段階ではいるべきか、何単位から処方するかまで記載されています。

今まで日本にはここまで明快に糖尿病治療薬の処方を示したものはありませんでした。これさえあれば、糖尿病の病態に苦手な実地医家の先生方も、これから本格的に糖尿病患者の治療にあたろうと考えている一般内科の先生方も処方薬に悩まなくて済みます。臨床で使える一冊です。M

●新書判 168頁 2010年
定価 2,520円(本体 2,400円+税 5%)
[ISBN 978-4-8404-3284-9] メディカ出版刊